

# 横井孝教授 業績目録

## 《単著》

- 1 『女の物語』のながれ―古代後期小説史論―  
加藤中道館  
一九八四年10月
- 2 『枕草子精釈〔新版〕』  
加藤中道館  
一九八八年5月
- 3 『源氏から平家へ』（編著）（新典社選書9）  
新典社  
一九九八年11月
- 4 『円環としての源氏物語』（源氏物語研究叢書1）  
新典社  
一九九九年6月
- 5 『源氏物語の風景』  
武蔵野書院  
二〇一三年5月

## 《共著・共編著》

- 1 『21世紀を創る―男性と女性―』（美尾浩子・馬居政幸・市岡修・佐藤登美と共著）  
静岡県企画調整部県民生活局婦人課  
一九八八年4月
- 2 『21世紀を創る Part Ⅱ―男性と女性―』（美尾浩子・馬居政幸・市岡修・佐藤登美と共著）  
静岡県環境・文化部婦人課  
一九九一年4月
- 3 『平安後期物語引歌索引―狭衣・寝覚・浜松―』（久下裕利・堀口悟と共著）  
新典社  
一九九一年4月

- 4 『論叢源氏物語1―本文の様相―』（王朝物語研究会編・横井孝責任編集）  
源氏物語の本文研究ということと（公条本）の存在と  
実践女子大学図書館山岸文庫蔵（公条本）源氏物語（桐壺）翻刻稿（上野英子と共稿）  
『延慶本平家物語考証1』（新典社）  
「狂言綺語の誤、讀仏乗の因」の典拠延慶本注  
解に関する覚書・三条『平家物語』の地理観  
念  
野村精一氏蔵（野村宗朔筆写本）『四部合戦状本平家物語・巻四』  
新典社  
一九九九年6月
- 5 『延慶本平家物語考証2』（新典社）  
康頼・成経帰京における異郷譚と「三年」の粹「有王丸油黄嶋へ尋行事」私注  
『書入れ注記による源氏物語本文のデータベ  
ス化に関する研究』  
（上野英子と共著）研究代表者・横井孝  
新典社  
二〇〇一年3月
- 6 『延慶本平家物語考証1』（新典社）  
康頼・成経帰京における異郷譚と「三年」の粹「有王丸油黄嶋へ尋行事」私注  
『書入れ注記による源氏物語本文のデータベ  
ス化に関する研究』  
（上野英子と共著）研究代表者・横井孝  
新典社  
二〇〇六年3月
- 7 『日本・中国・ヨーロッパ文学における絵入本の基礎的研究及びデータベースの構築』  
（高木元・内田保廣・佐藤悟・仲町啓子・宮崎法子・島孝行と共著）研究代表者・佐藤悟  
新典社  
二〇〇八年5月
- 8 『日本・中国・ヨーロッパ文学における絵入本の基礎的研究及びデータベースの構築』  
（高木元・内田保廣・佐藤悟・仲町啓子・宮崎法子・島孝行と共著）研究代表者・佐藤悟  
研究成果報告書  
平成14～17年度科学研究費（基盤研究（A））研究  
成果報告書  
平成10～12年度文部省科学研究助成費（基盤研究（C）（1））研究成果報告書  
新典社  
二〇〇八年5月

- 9 『紫式部集大成（実践女子大学本／瑞光寺本／陽明文庫本）』（久保田孝夫・廣田收と共著）  
笠間書院 11月
- 10 『源氏物語の-new研究—本文と表現を考える—』（久下裕利と共編）  
新典社 二〇〇九年10月
- 11 『源氏物語の本文と表現—『大成』以後』と『阿部以後』の模索へ向けて—  
源氏物語 本文と表現の展望—あとがきにかえて—  
実践女子大学図書館所蔵 黒川文庫目録【新版】（実践女子大学図書館・実践女子大学文芸資料研究所編 上野英子・越後敬子・松原哲子と共著）  
実践女子大学文芸資料研究所 二〇一一年3月
- 12 『平安後期物語の-new研究—寢覚と浜松を考える—』（久下裕利と共編）  
『寢覚』の風景—「しらかはの院」—  
寢覚物語 「源氏以後」とその展望—あとがきにかえて—  
新典社 二〇一四年5月
- 13 『王朝文学の古筆切を考える—寢覚と浜松を考える—』（久下裕利と共編）  
『夜の寢覚』 末尾欠巻部断簡の出現—伝後光厳院筆物語切の正体—  
古筆切と機縁と—あとがきにかえて—  
武蔵野書院 5月

14 『紫式部集』からの挑発―私家集研究の方法を模索して―（廣田收・久保田孝夫と共著） 笠間書院

二〇一八年3月

『紫式部集』の末尾―作品の終局とは何か―  
『紫式部集』における定家本とは何か―表記からの展望―

『紫式部集』の中世

鼎談 『紫式部集』研究の現状と課題 I

（廣田收・久保田孝夫と共稿）

鼎談 『紫式部集』研究の現状と課題 II

（廣田收・久保田孝夫と共稿）

紫式部・紫式部集研究年表（補遺稿）

（久保田孝夫と共稿）

15 『宇治十帖の新世界』（知の遺産シリーズ5）

武蔵野書院

一九七四年7月

（久下裕利と共編）

後篇の物語の構造

八の宮の遺言と大君の進退

### 《論文》

1 「ゆかり」の構造―朝顔の巻をめぐって―

『平安文学研究』第五二輯

一九七四年7月

2 紫の上の終焉

『駒澤国文』第一二号

一九七五年2月

3 藤壺物語の変容―薄雲の巻の一節をめぐって―

『平安文学研究』第五三輯

6月

4 『寢覚』論―「女の物語」として・序説―

『日本文学』第二五卷第五号

一九七六年5月

- 5 延慶本平家物語と天神縁起説話―付、登蓮法師の役割―  
『駒澤国文』第一四号  
一九七七年3月
- 6 『寢覚』の世界―「女」から「母」へ―  
『平安文学研究』第五八輯  
11月
- 7 駒沢大学図書館沼沢文庫蔵 奉紫式部影前和歌  
『駒澤国文』第一五号  
一九七八年3月
- 8 右京大夫の「夢」―ある作品論の試み―  
『駒澤国文』第一六号  
一九七九年3月
- 9 菅原道真から紫式部へ  
『日中語文交渉史論叢』桜楓社
- 10 「女」における物語史―『源氏』と『源氏』以後―  
源氏物語探究会編『源氏物語の探究・第四輯』風間書房  
4月
- 11 古事談「アイタノ城」考  
『駒澤国文』第一七号  
一九八〇年3月
- 12 「女」の物語の行方―源氏物語宇治論―  
『駒澤国文』第一八号  
一九八一年3月
- 13 『宇津保』俊蔭論―俊蔭女を考える―  
『駒澤国文』第一九号  
一九八二年3月
- 14 「女」たちの物語史―『無名草子』論―  
『駒澤国文』第二〇号  
一九八三年12月
- 15 『伊勢物語』論・断章―〈男の物語〉が産み出すもの―  
『平安文学研究』第七〇輯
- 16 延慶本平家物語に関する覚え書三条  
『駒澤国文』第二一号  
一九八四年2月
- 17 源氏物語絵巻伝流史管見―『豊明絵草子』『寢覚物語絵巻』との関連において―  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第三五号  
一九八五年3月
- 18 円環としての源氏物語―主題・構造・結尾―  
『駒澤国文』第二三号  
一九八六年2月
- 19 源氏物語受容史管見  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第三六号  
3月
- 20 光源氏の「昔」・紫の上の「今」―円環としての源氏物語Ⅱ―  
『駒澤国文』第二四号  
一九八七年3月

- 21 『源氏物語』の表現・断章―「霞の衣」を中心  
に―  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』  
第二十七号 3月
- 22 延慶本平家物語の仮名表記に関する試論  
『駒澤国文』第二十五号 一九八八年2月
- 23 源氏物語と作庭秘伝書―六条院の基底―  
第三十八号 3月
- 24 平家物語と広嗣・玄昉説話  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』  
第三十九号 一九八九年3月
- 25 「ゆかり」の物語としての源氏物語  
源氏物語研究会編『源氏物語の探究』第一四輯（風  
間書房） 9月
- 26 桜町中納言・異名由来のこと  
『駒澤国文』第二十七号 一九九〇年2月
- 27 延慶本平家物語本文の基礎的研究（I）  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』  
第四〇号 3月
- 28 山岸文庫本『本朝麗藻』  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第九号 3月
- 29 延慶本平家物語附載系図について  
『季刊ぐんしょ』第三卷二号（続群書類従完成会） 4月
- 30 母性論としての『寢覚物語』  
王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後  
1』（新典社） 5月
- 31 かの子の歌と男たち  
『短歌』第三七卷一二号（角川書店） 12月
- 32 実践女子大学図書館蔵山岸文庫本『富士の人  
穴草子』について  
『静大国語』第四号 一九九一年3月
- 33 山岸文庫本『本朝麗藻』（二）  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第一〇号 3月
- 34 「明石入道」に関する覚書  
王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後  
2』（新典社） 5月

- 35 実践女子大学図書館蔵『苔の衣』（五本） 一九九二年3月
- 36 山岸文庫蔵「伝明融等筆源氏物語」翻刻（2）  
—「葵」「賢木」「須磨」—（野村精一・上野英子・  
渡邊道子と共稿） 実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報Ⅱ』 3月
- 37 紫の上と女三の宮—若菜上・下巻と以後の巻  
々— 『光る君の物語』（源氏物語講座・第3巻）（勉誠社） 5月
- 38 螺旋としての源氏物語—竹取物語・長恨歌・  
李夫人の引用と作品構造— 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後  
3』（新典社） 5月
- 39 平家物語の〈草子地〉—延慶本を中心に— 村上學編『平家物語と語り』（三弥井書店） 10月
- 40 比較文学的視点による紫式部論 『静大国語』第六号 一九九三年3月
- 41 物語から平家物語へ—その序説— 『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』  
第四三号 3月
- 42 物語文学における〈後家の力〉 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその前後  
4』（新典社） 5月
- 43 女人哀話考—小宰相と建礼門院と— 水原一編『平家物語 説話と語り』（あなたが読  
む平家物語2）（有精堂） 一九九四年1月
- 44 覚勝院抄管見 実践女子大学文芸資料研究所編『源氏物語古注  
釈の世界—写本から版本へ—』（汲古書院） 3月
- 45 延慶本平家物語における白氏文集の引用に関  
する覚書（上） 『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』  
第四四号 3月

- 46 山岸文庫蔵「伝明融等筆源氏物語」翻刻(3)  
 ─「明石」「滯標」「蓬生」「関屋」─(野村精一・  
 上野英子・渡邊道子と共稿) 実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報Ⅲ』 3月
- 47 源氏物語の基底―准拠と引用の方法をめぐる  
 断章― 王朝物語研究会編『研究講座 源氏物語の視界  
 1・准拠と引用』(新典社) 3月
- 48 寢覚物語引歌索引補遺稿 王朝物語研究会編『論集 源氏物語とその後  
 5』(新典社) 5月
- 49 延慶本平家物語における白氏文集の引用に関  
 する覚書(下) 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九五年3月  
 第四五号
- 50 紫式部の心―その二元論についての試論― 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九六年3月  
 第四六号
- 51 重衡物語の輪郭―延慶本平家物語の語りと本  
 文― 水原一編『古文学の流域』(新典社) 4月
- 52 鎌倉物語の構造と説話の位相 『説話文学研究』第三一号 8月
- 53 『少将滋幹の母』の位相 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』 一九九七年3月  
 第四七号
- 54 「まじふ」人々と浮舟と 王朝物語研究会編『研究講座 源氏物語の視界  
 5―薫から浮舟へ―』(新典社) 5月
- 55 読みの許容圏ということ―谷崎潤一郎の作品  
 を中心として― 『静大国語』第一〇・一一合併号 一九九八年3月
- 56 山岸文庫蔵『公条本源氏物語』―解題ならび  
 に「帚木・空蟬」影印― 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第一八号 一九九九年3月

- 57 物語・終焉のかたち——『狭衣物語』結尾の位相——  
実践女子大学文芸資料研究所編『物語史研究の方法と展望（論文篇）』（実践女子大学文芸資料研究所）  
3月
- 58 物語から日記へ、日記から物語へ  
王朝物語研究会編『研究講座 王朝女流日記の視界』（新典社）  
6月
- 59 平家物語の「構想」と「構造」——「驕レル人」「猛キ者」をめぐる——  
『静岡大学教育学部研究報告（人文・社会科学篇）』第五〇号  
二〇〇〇年3月
- 60 源氏物語本文管見——「御」のよみと諸本の関係——  
『実践国文学』第五八号  
10月
- 61 「検非違使別当平清盛」の背景  
『実践女子大学文学部紀要』第四三集  
二〇〇一年3月
- 62 山岸文庫蔵『公条本源氏物語』のAMS14C年代（小田寛貴・野村精一・中村俊夫・上野英子・丹生越子と共著）  
『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XII号  
3月
- 63 技術としての源氏物語絵巻  
久下裕利編『源氏物語絵巻とその周辺』（新典社）  
4月
- 64 子どもの領分（1）——源氏物語「十ばかり」のころ——  
『実践国文学』第六〇号  
10月
- 64 潮廻舎文庫蔵『平家物語』整版本掌録（1）  
『実践女子大学文学部紀要』第四四集  
二〇〇二年3月
- 65 （下田歌子）『源氏物語講義 若紫』解説  
下田歌子『源氏物語講義 若紫』（実践女子学園）  
3月
- 66 加速器質量分析計による山岸文庫蔵『伝公条本源氏物語』の14C年代測定（小田寛貴・野村精一・中村俊夫・上野英子・丹生越子と共著）  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第二一号  
3月

- 67 常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(二)——巻第二之上——  
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』VI号 3月
- 68 子どもの情景——『源氏物語』の点景から——  
『国語と国文学』第七九巻第五号 5月
- 69 「ならの京」——『伊勢物語』初段の風景——  
王朝物語研究会編・仁平道明責任編集『論叢伊勢物語2——歴史との往還——』(新典社) 5月
- 70 子どもの領分(2)——物語、おとなと子ども  
の間——  
『実践国文学』第六二号 10月
- 71 源氏物語本文臆見——「一字不違」の近辺と外  
周と——  
『実践国文学』第六三号 二〇〇三年3月
- 72 潮廻舎文庫蔵『平家物語』整版本掌録(2)  
常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(三)——巻第  
二之下く巻四之上——(一文字昭子と共稿)  
『実践女子大学文学部紀要』第四五集 3月
- 73 源氏物語本文小見——薄雲の巻をめぐる諸本の  
すがた——  
『実践国文学』第六四号 10月
- 74 丸谷才一『輝く日の宮』を読む——『源氏物語』  
の商品化の方法——  
『実践国文学』第六五号 二〇〇四年3月
- 75 常磐松文庫蔵『狭衣文談』翻刻(四)——巻四  
之下——(一文字昭子と共稿)  
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』VIII号 3月
- 76 『紫式部集』実践女子大学本管見——その形態か  
ら研究の現状を考える——  
『実践国文学』第六六号 10月
- 77 軍記・年齢記述の意味——「十三歳」表記を軸  
として——  
『実践国文学』第六七号 二〇〇五年3月

- 79 物語版本の挿絵の転用・流用―『源氏物語』『伊勢物語』などを通して―  
『実践女子大学文学部紀要』第四七集 3月
- 80 常磐松文庫蔵『狭衣文談』正誤表ならびに校異表(一)  
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』IX号 3月
- 81 六条院の風景―『源氏物語』の庭園を再構築する―  
坂本共展・久下裕利編『源氏物語の新研究―内なる歴史性を考える―』(新典社) 9月
- 82 物語文学整版本の挿絵における転用・流用の問題―山本春正『絵入源氏』を通して―  
『実践国文学』第六八号 10月
- 83 谷崎潤一郎「検印」による略年譜のころみ  
『実践国文学』第六九号 二〇〇六年3月
- 84 常磐松文庫蔵『狭衣文談』正誤表ならびに校異表(二)  
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』X号 3月
- 85 源氏物語版本挿絵考―その基礎的研究として―  
久下裕利・久保木秀夫編『平安文学の新研究―物語絵と古筆切を考える―』(新典社) 9月
- 86 谷崎潤一郎「検印」による略年譜のころみ・補正  
『実践国文学』第七〇号 10月
- 87 「未央柳」のゆくえ―下田歌子『源氏物語講義』の周囲をめぐる考察―  
日向一雅・仁平道明編『源氏物語の始発―桐壺巻論集―』(竹林舎) 11月
- 88 実践女子大学本『紫式部集』奥書考―年紀への疑惑をめぐって―  
『国語と国文学』第八四巻第一号 二〇〇七年1月
- 89 物語絵の「かたち」に「意味」はあるのか(平安文学における場面生成研究プロジェクト第4回研究会・基調報告10)  
国文学研究資料館文学形成研究系「平安文学における場面生成研究」プロジェクト編『平安18年度研究成果報告・物語の生成と受容②』(国文学研究資料館) 2月

- 90 源氏物語版本挿絵考―その画像データベースの必要性―  
『国文学研究資料館紀要・文学研究篇』第三三号 2月
- 91 紫式部と鴨川の風景  
『実践国文学』第七一号 3月
- 92 源氏物語「六条院」の読み方  
明治大学学術フロンティア推進事業「日本古代文化における文字・画像・伝承と宗教の総合的研究」  
『古代学研究所紀要』四号 3月
- 93 源氏物語関連画像集成稿―そのデータベース構築に向けて―  
実践女子大学芸芸資料研究所『年報』第二六号 3月
- 94 鎌倉・室町時代の『源氏物語』―『夜寝覚物語』『とりかへばや』などを通して―  
三角洋一編『講座源氏物語研究 第四卷』(鎌倉・室町時代の源氏物語) (おうふう) 6月
- 95 『寝覚』の風景―「広沢の池のわたり」―  
永井和子編『源氏物語へ 源氏物語から― 中古文学研究24の証言―』(笠間書院) 9月
- 96 山本春正『絵入源氏物語』―その挿絵はいかにして可能になったか―  
『国文学・解釈と教材の研究』《特集・絵で読む源氏物語》第五三巻第一号(學燈社) 二〇〇八年1月
- 97 国文学研究資料館本『源氏物語歌合絵巻』の紹介―実践女子大学常磐松文庫本『住吉物語絵巻』にふれて―  
実践女子大学芸芸資料研究所『年報』第二七号 3月
- 98 源氏物語と近衛府の物語―右大将と右中将―  
日向一雅編『王朝文学と官職・位階』(平安文学と隣接諸学4) (竹林舎) 5月
- 99 源氏物語と宮廷絵画の余光―新出『源氏物語歌合絵巻』の紹介と翻刻―  
仁平道明編『王朝文学と東アジアの宮廷文学』(平安文学と隣接諸学5) (竹林舎) 5月

- 100 紫式部にとって「日記」とは何だったか―「水  
火の責め」による位相、その序説―  
秋山虔・福家俊幸編『紫式部日記の新研究―表  
現の世界を考える―』（新典社）  
5月
- 101 源氏物語の「六条院」―「大規模造営の時代」  
の文学―  
日向一雅編『源氏物語と平安京―考古・建築・儀  
礼―』（青簡舎）  
7月
- 102 実践女子大学本『紫式部集』の現状、その  
他―その擦り消し痕・『紫式部集大成』拾遺な  
ど―  
『実践国文学』第七四号  
10月
- 104103 実践女子大学本『紫式部集』の現状報告  
源氏物語の一〇〇年―「下田講義」から「阿  
部以後」へ―  
同  
二〇〇九年3月
- 105 文芸資料研究所蔵絵入版本『栄花物語』（二）  
―略解題・翻刻・影印―  
実践女子大学文芸資料研究所『別冊年報』XII号  
3月
- 106 『寝覚』の風貌―「源氏以後」の世界へ―  
秋山虔編『平安文学史論考―武蔵野書院創立90  
周年記念論集』（武蔵野書院）  
12月
- 108107 『寝覚』（夜の寝覚）結尾の風景  
『国文学 解釈と鑑賞』第七五卷第三号  
二〇一〇年3月
- 109 常盤松文庫蔵 奈良絵本栄花物語三冊  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第二九号  
3月
- 110 実践女子大学蔵 明融本源氏物語の現状報告  
と新提言 Ⅲ（科学研究費補助金平成一九年度  
研究成果報告書）  
『中古文学』第八五号  
6月
- 形態と伝流から『紫式部集』を見る  
（シンポジウム『紫式部集』研究の現在）

- 111 「大規模造宮の時代」の一風景―『源氏物語』の時代のある喪失をめぐって― 仁平道明編『源氏物語と東アジア』（新典社） 9月
- 112 父系の指・母系の唇―松本清張の原形質をもとめて― 『実践国文学』第七八号 10月
- 113 薫をめぐる風景―「ほうさうじのわたり」・巨椋の池― 森一郎・岩佐美代子・坂本共展編『源氏物語の展望 第八輯』（三弥井書店） 10月
- 114 『栄花物語』述作者のバイアス 『むらさき』（紫式部学会編輯／武蔵野書院） 12月
- 115 『更級日記』孝標をめぐる風景―その大いなる「凡庸」について― 福家俊幸・久下裕利編『王朝女流日記を考える―追憶の風景』（武蔵野書院） 二〇一一年1月
- 116 草稿と注釈的研究と―谷崎潤一郎『夢の浮橋』― 『実践国文学』第七九号 3月
- 117 『資料紹介』物語絵 ひとつの形象―実践女子大学文芸資料研究所蔵『伊勢物語の哥絵』― 軌跡―（武蔵野書院） 5月
- 118 小宰相・通盛の物語と『狭衣物語』 『国立能楽堂』第三三四号 5月
- 119 定家本『紫式部集』と定家筆断簡―実践女子大学本の現状報告・二― 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三二号 二〇一二年3月
- 120 黒川文庫目録【新版】追補稿 同 同
- 121 紫式部集定家本表記考―その位相検討への序説として― 研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表情報報学】の基盤構築に関する研究』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一一年度研究成果報告書） 3月

- 122 講義 源氏と源氏以後——第一講・「文学」と「効用」の問題——  
『実践国文学』第八二号 10月
- 123 紫式部集の末尾をめぐる試考——古典作品の終局の相というもの——  
『実践国文学』第八三号 二〇一三年3月
- 124 講義 源氏と源氏以後——第二講・紫式部と孝標女の問——  
『実践国文学』第八四号 10月
- 125 「宇治十帖のうち第一の詞」——源氏物語における注釈世界——  
日向一雅編『源氏物語 注釈史の世界』（青簡舎） 二〇一四年2月
- 126 紫式部集古本系表記考——「かへし」「返し」「返」——  
研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究Ⅱ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一二年度研究成果報告書） 2月
- 127 かな字母による表記情報学の課題  
研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報学】の基盤構築に関する研究Ⅲ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一三年度研究成果報告書） 3月
- 128 『夜の寢覚』末尾欠巻部復元の問題点——新出断簡分析の方法を模索して——  
『実践国文学』第八六号 10月
- 129 講義 源氏と源氏以後——第三講・藤原定家という存在——  
『実践国文学』第八七号 二〇一五年3月
- 130 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿  
実践女子大学文学資料研究所『年報』第三四号 3月
- (一)

- 131 源氏物語の本文異同と表記情報―かな字母による表記情報は可能か―  
 研究代表者・今西裕一郎『日本古典籍における【表記情報】の基盤構築に関する研究Ⅳ』（科学研究費補助金基盤研究（A）二〇一四年度研究成果報告書）  
 3月
- 132 桐壺帝をめぐる「風景」―『源氏物語』のひとつの情景として―  
 田坂憲二・久下裕利 編『知の挑発②／源氏物語の方法を考える―史実の回路―』（武蔵野書院）  
 5月
- 133 『紫式部集』注釈のために―「注解」の方法への試考―  
 『実践国文学』第八八号  
 10月
- 134 講義 源氏と源氏以後―第四講・平安後期物語の可能性―  
 『実践国文学』第八九号  
 二〇一六年3月
- 135 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿  
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三五号  
 3月
- 136 源氏物語古筆切事始―筆者不明の断簡を読む―  
 『実践国文学』第九〇号  
 10月
- 137 山岸徳平博士の現写本考―実践女子大学図書館山岸文字蔵本識語編年資料から―  
 『実践国文学』第九一号  
 二〇一七年3月
- 138 実践女子大学所蔵 源氏物語古筆切目録稿  
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三六号  
 3月
- 139 山岸徳平博士の物語研究一斑―実践女子大学図書館山岸文字蔵本識語編年資料から―  
 『実践国文学』第九二号  
 10月
- 140 源氏物語本文研究と古筆切研究のあわい  
 『実践国文学』第九三号  
 二〇一八年3月

- 141 実践女子大学図書館山岸文庫蔵本奥書識語編  
年集成  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三七号  
3月
- 142 源氏物語の「自然」と「表現空間」―野村精  
一の仕事をめぐって―  
『実践国文学』第九四号  
10月
- 144 143 物語の本義(一)  
物語関係古筆切目録稿  
『実践国文学』第九五号  
二〇一九年3月
- 145 (別府節子・久下裕利と共稿)  
物語の本義(二)  
実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三八号  
3月
- 『実践国文学』第九六号  
10月
- 《時評・書評》
- 1 源氏物語(巻論・人物論・表現論など)  
全国大学国語国文学会『文学・語学』第一四四号  
一九九五年3月
- 2 狭衣物語の本文研究を概観し、近刊專著の紹  
介に及ぶ  
『実践国文学』第五九号  
二〇〇一年3月
- 3 久下裕利著『物語の廻廊―源氏物語』から  
の挑発―話型論のあらたな一歩へ  
『国文学研究』第一三五集(早稲田大学国文学会)  
二〇〇一年10月
- 4 中世―随想として―  
『文学・語学』(全国大学国語国文学会)第一八四号  
二〇〇六年3月
- 5 書評 高田信敬著『源氏物語考証』  
『国語と国文学』第八八卷第三号  
3月
- 《項目執筆》
- 1 「平資盛」「平知章」「伊東祐親」「山鹿秀遠」  
『源平時代人物ものしり事典』(新人物往来社)  
一九七九年4月
- 2 「平資盛」「平知章」「伊東祐親」「山鹿秀遠」  
『総集編 源平人物ものしり百科』(別冊歴史読本  
特別増刊一九卷二号)(新人物往来社)  
一九九四年1月

- 3 「源義家」「源義経」「源義朝」「源義仲」「源義光」  
朝倉治彦・三浦一郎編著『世界人物逸話大事典』  
(角川書店) 一九九六年2月
- 4 「じんぶつこしょう(人物呼称)」「たまかずら  
(玉鬘)」  
林田孝和・植田恭代・竹内正彦・原岡文子・針本  
正行・吉井美弥子編集『源氏物語事典』(大和書房)  
小町谷照彦編『必携』源氏物語を読むための基  
礎百科』(學燈社) 二〇〇三年11月
- 5 「成立と構成」「表現と方法」  
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第一本(巻一)』(項目執筆) 二〇〇五年5月
- 6 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第一本(巻二)』(項目執筆) 二〇〇六年5月
- 7 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第一末(巻二)』(項目執筆) 二〇〇七年8月
- 8 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第二本(巻三)』(項目執筆) 二〇〇八年10月
- 9 『源氏物語团扇画帖』第46図〜第54図「明融  
本『源氏物語』」「源氏物語歌合絵巻」『源  
氏のゆらい』  
国文学研究資料館編『源氏物語千年のかがやき  
―立川移転記念特別展示 図録―』(思文閣出版)
- 10 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第二中(巻四)』(項目執筆) 二〇〇九年5月
- 11 「恵美押勝」「玄昉」「小宰相」「慈恵」「輔仁親  
王」「平通盛」「登蓮」「髑髏尼」「源氏物語」「狭  
衣物語」『巖島神社蔵平家物語断簡』  
日下力・佐伯真一・櫻井陽子・大津編『平家物  
語大事典』(東京書籍) 二〇一〇年11月

- 12 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第二末(巻五)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一一年4月
- 13 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第三本(巻六)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一二年5月
- 14 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第三末(巻七)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一三年5月
- 15 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第四(巻八)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一四年5月
- 16 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第五本(巻九)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一五年10月
- 17 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第五末(巻十)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一六年11月
- 18 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第六本(巻十二)』(項目執筆) (汲古書院) 二〇一八年3月
- 19 延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈  
第六末(巻十二)』(汲古書院) (項目執筆) (汲古書院) 二〇一九年3月

《その他》

- 1 幻の巻の構造―明石の君の登場をめぐる― 『論輯』第一号(駒澤大学大学院) 一九七三年2月
- 2 幻の巻の構造続論 『論輯』第二号(駒澤大学大学院) 一九七四年2月
- 3 「宇治」序説―「ゆかり」の構造― 『論輯』第三号(駒澤大学大学院) 一九七五年2月
- 4 〈研究ノート〉紫式部日記冒頭の解釈 『論輯』第四号(駒澤大学大学院) 一九七六年2月

- 5 『とはずがたり』 語彙二つ  
 『論輯』第五号（駒澤大学大学院）  
 一九七七年2月
- 6 『女の物語』のながれ』 楽屋話  
 『図書館通信』第七二号（静岡大学付属図書館）  
 一九八五年7月
- 7 「講座」に参加する女性たち―その現在と将来―  
 『母と生活』（社）静岡県出版文化会）第三六卷  
 一九九三年2月
- 8 『駒澤國文』による半自伝  
 『駒澤國文』第三〇号  
 第二号  
 一九九六年7月
- 9 光源氏になれなかった男  
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二二号  
 2月
- 10 平忠度の背中に見えるもの―『平家物語』の陰翳―  
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二六号  
 一九九六年7月
- 11 大塚楠緒子の生と作品  
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二六号  
 二〇〇二年7月
- 12 『源氏物語講義 若紫』に寄せて―「解説」に書き残したこと、など―  
 『Library Mate』（実践女子大学図書館）第二八号  
 7月
- 13 上村松園と源氏物語  
 『りんどう』（実践国文同窓会）第二九号  
 二〇〇四年7月
- 14 源氏物語の世界―藤壺の宮の恋は書かれていないか―  
 『りんどう』（実践国文同窓会）第三〇号  
 二〇〇五年7月
- 15 火事と「大規模造営の時代」の文学  
 『中古文学会関西西部会会報』第六号  
 二〇〇八年3月
- 16 三谷博士の葉書をご紹介します  
 『りんどう』（実践国文科会）第三三号  
 7月
- 17 シンポジウム「源氏物語の古筆切」  
 実践女子大学芸資資料研究所『年報』第二九号  
 二〇一〇年3月
- （田中登・別府節子・池田和臣・今西祐一郎・横井孝（司会））
- 18 座談会「王朝物語の古筆切」  
 『武蔵野文学』（武蔵野書院）二〇一〇増刊夏号  
 5月
- （池田和臣・加藤昌嘉・久下裕利・久保木秀夫・小島孝之・横井孝（司会））

- 19 座談会「王朝物語の絵画―『竹取』『伊勢』を中心に―」  
 (上原作和・久下裕利(司会)・針本正行・山本登朗・横井孝)  
 『武蔵野文学 Wide』01号(武蔵野書院) 9月
- 20 座談会「黒川文庫の過去・現在・未来」(加藤昌嘉・久保木秀夫・久保田孝夫・田中登・佐藤悟・上野英子・横井孝(司会))  
 実践女子大学文芸資料研究所『年報』第三〇号 二〇一一年3月
- 21 座談会「王朝女流日記の作者―もう一つの顔―」  
 『武蔵野文学』二〇一一年増刊夏号(武蔵野書院) 5月
- 22 「研究対談『隣組の学術交流協定』」(今西裕一郎と共稿)  
 『国文研ニュース』第二五号(国文学研究資料館) 10月
- 23 座談会「王朝物語の官職について―その歴史社会的背景―」  
 『座談会 王朝物語の官職について―その歴史社会的背景―』(武蔵野書院) 二〇一二年5月
- 24 座談会「夜の寝覚」(大槻福子・久保木秀夫・中川照将・仁平道明・横井孝・横溝博(司会))  
 『武蔵野文学』二〇一四年増刊春号(武蔵野書院) 二〇一四年5月
- 25 『源氏物語』と古筆切  
 実践女子大学編『実践女子大学百二十周年展覧会図録/宮廷の華 源氏物語』 6月
- 26 講演記録 源氏物語がもたらした縁―紫式部と孝標女をつなぐもの―  
 『りんどう』(実践国文同窓会) 第四〇号 二〇一五年7月
- 27 国文学科一〇〇周年に向けて  
 同 同

28 (メッセージ) 本文研究の近未来と集積の意味 『国文研ニュース』第四九号 (国文学研究資料館) 二〇一七年10月

29 山岸文庫本、奥書・識語のなかの近未来 『中古文学』(第百号記念号) 11月

30 山岸徳平博士の『源氏物語』研究一斑―実践 『中古文学会関西西部会会報』第一六号 二〇一八年3月

女子大学図書館蔵山岸文庫蔵識語調査から―

### 〈付記〉

二〇二〇年前半には、横井の関わった仕事として、

①実践女子大学編『実践女子学園創立一二〇周年記念

実践女子大学所蔵貴重書図録』(実践女子大学文芸資

料研究所・武蔵野書院、二〇二〇年二月)

②田中登・横井孝編(中葉芳子・佐々木孝浩・高田信敬・

針本正行著)『源氏物語 古筆の世界』(武蔵野書院、

二〇二〇年九月)

③久下裕利・横井孝編『紫式部日記・紫式部集の新世界』

(武蔵野書院、二〇二〇年五月)

④横井「源氏物語鎌倉期本文の可能性」(中古文学会関

西支部編『源氏物語 本文研究の可能性』和泉書院、

二〇二〇年五月、所収)

などが世に出る予定。この他にも、ここ一〇年来知友と約  
束し、幾分かは形になりつつあるものもある。しかし、本  
稿執筆時(二〇一九年一二月)にはまだ画に描いた餅であ  
る。